

日新

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
日日新 ひ び あら 日々に新たに
又日新 また ひ あら 又日に新たなり
出典 「大学」

日新地区だより 50号

ゆめ
にっしん

「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日々に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：魅力あるまちづくり日新 広報部会
福井市文京5丁目1-8 日新公民館
発行日：令和元年(2019年)6月20日

平成⇒新元号「令和」へ、

そして「ゆめ・にっしん」節目の50号発行



(政府発表写真)

5月に平成から新元号「令和」に変わりました。同時に、今回の「ゆめ・にっしん」も平成18年の2月に創刊号が発行され、節目の50号です。これまでの元号は、すべて中国の古典からの由来でしたが「令和」は、初めての日本古典万葉集からの引用となりました。安倍首相によると「日本の四季折々の文化と自然を、これからの世代にも引き継いでいきたい」という思いで、万葉集から引用しているとのこと。言い換えれば「素晴らしい歴史や文化を持つ日本で、人々が美しい心を寄せ合う中で、文化が生まれ育ち、明日への希望とともに、次世代を生きる子どもたちが、大きな花を咲かせることができる。」という思いが込められているということではないでしょうか。「ゆめ・にっしん」創刊号には「地区に埋もれた文化やお宝を、アンテナとして発信していきます。耳寄りな情報やここだけの話をどうぞお寄せください。」と書かれていました。歴代の広報部の方々に敬意を表すと共に、原点に返り地域の情報を記載させていただき次世代の子供達に素敵な日新を残していきたいと思えます。是非ご協力をお願いします。

これからの日新地区がさらに より良い地区になることを信じて

日新公民館館長 広瀬行雄

「ゆめ・にっしん50号」発刊おめでとうございます。

過去の「ゆめ・にっしん」をあらためて見直して感じることは地域の行事だけでなく（公民館だよりはどうしても行事中心になってしまうのですが）人や歴史や地域の課題などがとても幅広く取り上げられていることです。また形式もB4版⇒A3版⇒A3版二つ折りと変化してきており、その時々広報部の方々の熱意と創意工夫の心意気が伝わってきます。

小学生や中学生や新成人など、若い人たちに日新地区について語る機会が多いのですが、その時に、まちづくり活動も含めて「日新地区は、地域の課題をそのままにはしておかず、より良い地域にしようと頑張る人たちがたくさんおられる地域なんだよ。君たちはそれを誇りにすればいいんだよ。」と紹介できることをとてもうれしく感じています。

「ゆめ・にっしん」は、地域と地域活動理解のためのとても大切なツールであり、日新地区がさらにより良い地区になるために、ますます発展・充実されることを心からお祈りしています。

みんなで作る「まちの未来づくり日新」を！

西村きみ子

日新地区のまちづくりへのご尽力に心から敬意を表します。「ゆめ・にっしん」も50号を迎えられたとのことおめでとうございます。

私も今年で市議員として8期32年働かせていただき、この度引退させていただきました。長年にわたり地区の皆様大変お世話になりましたこと心から感謝申し上げます。これからも市民の皆様、地区の皆様と共に住みよいまちづくりに引き続き取り組んでいきたいと思えます。

これからの人口減少社会への対応、住み続けられるまちづくりの実現は大きな課題ですが、私たちの切実な願いです。ご一緒に知恵を出し合い、取り組みを進め、コミュニティや共同の輪を広げられるよう、私も頑張っていきたいと思えます。

まちの未来づくり日新実行委員会のますますのご発展と地区の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたします。

最近の底喰川は地区住民の協力により以前とは比較にならないほど綺麗になりましたが、一部上流で河川工事のため泥水が流れ決して満足できないこともある。

一例を見ると水中に住む魚類等の数が減少しているように思われる。汚濁した水で酸素不足、また川底に繁茂する水草のササバモ等も原因の一つであると考えられる。

またザリガニなどの生きものが極端に少なくなったように感じられる。これは帰化し住みついた繁殖力があり少々獍猛なアカミミガメその他スッポンの餌となり、同時に小動物の住家まで奪い取られたと考えられる。河川敷を歩いて見ると横穴と縦穴が多数見受けられる。これは、冬眠のためのものでカメは肺呼吸のためと考えられる。いずれ河川敷の土砂が増水時に流され幅が狭くなると考えられる。できればこの様な害を与えるものを駆除したいものである。

今一度真剣に考えなければならない問題は、相変わらずペットボトル、空き缶、プラスチック製品等の投げ捨てである。鳥類、特に多く棲息しているカルガモが、惣菜の入っていたトレーについた食品の一部をトレーと一緒に食べて、十分な消化・吸収が出来ず命をおとしたと思われる。今年3月までに2羽の死骸が見られ、去年は4羽であった。この様な悲惨な現象を少しでも除くには住民一人一人が不法投棄者の監視委員になってほしいものである。



ペットボトルなどが散乱

乾公園のツツジ

5月28日(火)の早朝に乾公園を訪れました。朝日に染まった公園の中はどことなくきれいに感じられました。特にツツジが綺麗に咲いていました。これはボランティアグループ「乾公園を綺麗にしましょう」の5人が6年前から毎週月曜日に公園内を清掃・花木の手入れを行った結果です。



来る8月25日(日)に三条葵さんが日新公民館に!

来る8月25日(日)三条葵さんが公民館にて講演をしてくださることになったので、その前に京都にてお会いすることにしました。



5月11日に京都駅前の新阪急ホテルロビーにて、着物姿で艶やかに結い上げられた日本髪で待っておられたご婦人と、その横に同じく着物姿の二人のご婦人とお会いしました。

前者は日本髪生活研究家の「三条葵さん(39)」です。もう一人は三条桂さん(お母さん)です。早速、なぜ、日本髪での生活をされているのかお聞きしたところ「小学生の頃、母の成人式の写真を見る機会があり、日本髪を結っていることに衝撃を受けました。日本人はつい最近まで日本髪を結ったスタイルで生活していたことが分かりました。そして私も!」と答えていただきました。最初は7時間をかけて結っていた髪は、今は4日に一回の割合で髪を結うのに3時間を費やすそうです。「せっかく素敵な日本髪での生活スタイルが無くなってしまふのはもったいない!何とか残したい。そして将来は日本髪で生活することを決めました。」そんな思いから、日本髪での生活が始まったそうです。その他いろいろなこととお聞きしましたが、今度は公民館で直接お話ししてもらいます。およそ90分間のインタビューでした。8月25日が楽しみです。



第41回日新区民体育大会が開催される

5月19日(日)快晴でしたが、風の強い日でした。そして昨年の反省を踏まえて終わる時間を少し早める予定でプログラムが組まれ、終了したのが午後3時20分でありました。総合得点は午前中と午後では異なるほど熱戦が繰り広げられました。熱戦の様子です。



結果は

- 1位 文里
- 2位 堀ノ宮
- 3位 宮島
- 4位 乾徳 でした。

街の文化人



今回は「福井市歴史ボランティア語り部」に所属している文京6丁目の山村直文(68)さんを紹介します。

春爛漫の4月21日に福井市の柴田神社へ山村さんを訪ねました。山村さんにインタビューしたところ、「会員は約60名で、実際に活動しているのはその半数。利用される人は県外からの旅行者や転勤で福井に来られた方が大半で、5・6人のグループで利用されることが多いです。また、今流行の「歴史女」の方を案内した時、よく知っておられるのに驚かされました。市内の名所6~7カ所を徒歩で約1時間で案内します。もっと詳しく伝えたいのですが時間がない点が悩みです。」と話してくださいました。単なる歴史的な事実だけでなく、裏話も交えて福井の歴史を説明していただきました。

「是非、地元の公民館で子供達に対して福井の歴史を語りたい」と言われていました。近いうちにお願いたいものですね。

福井の語り部

これはなあに？

珍しい雪止め



あまりにも天気が良いので、大宮5丁目のえちぜん鉄道日華化学駅近くで空を見上げると軒先に螺旋状の金具がついている屋根を見つけました。これはいったい何でしょう？

最近、大名町ロータリー近くの木々に鳥の巣が増えてフン害で困っていると聞いているので、鳥のフン害対策かと思いましたが、そうでもないようです。そこで家の人にお聞きしましたところ「ソーラーパネルの保護のための雪止めです。」と答えていただきました。注意して屋根を見て歩くと、乾徳3丁目にも同じものが設置されていました。



今年5月から元号が「令和」となったことを節目に、部会活動のあり方を考える年としたいと考えています。環境部会の目標は市民憲章の基でのまちづくりを行い、日新地区の中心を流れる底喰川と公民館を中心としての環境美化活動を行っていきつくりです。このことでの問題点は休みなく変化していく自然に対して我々（人）がどう取り組めるかです。大きな自然に対して少人数では対処できなく賛同していただける協力者を得ることが是非必要であると思います。宜しくお願いしま

す。そこで、実施事項としては毎月第4日曜日の定例清掃を主に、ゴミ拾い、草取り・草刈り、花木の手入れ等の管理、活動の報知、交流会などを行います。5～6月は生育旺盛な草取り・草刈りを中心に始まり、ミソハギ、皇帝ダリア周りの除草が大変です。6月24日には福井商業高校のボランティア協力の受け入れ実施を予定しています。そして、8月4日のミソハギ花まつりの成功に向けて作業を続けていきます。部の存続の為にも若手の役員を増していくこととしております。

平成22年の4月より、スタートを切ったまちづくり交通部会は役員による企画会議と準備体制に試行運転、試行運転延長査定と、その後役所の活性化対策会より承認をもらい運行事業に踏み切った。そして第2回の業績査定が今年の3月末時点の実績（1年間）により基準割当を100%以上達成したことから、今年の10月に本格運行が行われ、現在に至っております。特に今年の8月には効率アップのねらいとして、事業内容見直しをし安定的な業績結果を残しております。

【日新コミュニティバスの運行目的】

1. 地域住人の毎日の生活推進の利便性を高める為の交通支援的対策
 2. 利用者による利用者同志のフレンドリーから人間関係の輪作り
 3. イベント企画を立案し参加課程での親睦を計りサークル作りを求める
- 以上の部会の推進目標テーマを全役員が推し進める事とする



日新小学校のバス停に令和元年に入学された新1年生27名が「さんさんバス」に乗り込んできました。Aコープ近くの牧場での体験授業で、途中での交通利用であります。車中では笑顔を絶やさず賑やかであり、楽しい僅かな時間帯であったと思います。乗車・下車時には一人一人の小さなモミジのような手を取り、全員が怪我のないように、大切に対応させてもらいました。私（78歳）は心の癒やしと幸せな場面を感じることができました。この子供たちが将来、成人に又は社会人となるときまで、又それ以上長きにわたって、この事業が続き、子供にも成人にも高齢者にも可愛がっていただき、安定的に推し進められることを願います。今後も日新のシンボルとして確立し今まで以上の惜しむことのない努力を重ねたいと思います。

令和のスタートに当たり今後とも応援の程をよろしく申し上げます。

元号が「令和」となったのが今年の5月、丁度50回目の節目となる「ゆめ・にっしん50号」の発行が1か月後の6月であります。そこで、今年度はこの「令和」の「和」にちなんだ日本の心を伝えていくことをテーマとしたもの、日新地区のシンボルである「底喰川をより綺麗にするには？」をテーマとした二つの講演会を開きます。最初は8月25日に日新公民館で日本髪生活研究家である「三条葵」さんをお呼びすることにしました。



今はまだ知名度が低いですが来年以降はブレイクしそうです。後者の方は県内の綺麗になっている川の地域の方をお願いするつもりです。是非、公民館に足をお運びください。宜しくお願いします。